

栗駒火山調査報告

理學士 大井上 義 近

總 論

關東平野ヲ越エテ以北ノ地ヲ觀ルニ山脈ハ殆ンド三帶ニ分レ相竝行シテ南北ニ連亘ス其東帶ハ所謂北上山脈竝ニ阿武隈山脈ニシテ中帶ハ那須火山脈ニ依テ占メラレ出羽丘陵其西帶ヲナシテ鳥海火山脈其中ニ噴起ス、而シテ北上阿武隈ノ兩河ハ東帶ト中帶トノ間ヲ流レ岩木御物最上等ノ諸谷ハ中帶ト西帶トノ間ニ横リテ明ニ三帶ヲ區劃セリ。

北上山脈ハ東ハ太平洋ニ面シ西ハ馬淵、北上ノ兩河ニ依テ界セラレ恰モ紡錘狀ヲ呈シ、大平洋ニ面セル部分ニハ「リアス」式ノ小灣入多ク地形上此山脈ノ特色ヲナス、而シテ山脈中最モ高キヲ早地峰ト稱シ二千米ニ垂ントス。

阿武隈山脈ハ仙臺灣ヲ距テ、其南ニ位シ其形恰モ前者ニ髣髴タリ此山脈ハ高原ニシテ阿武隈川其西ヲ流レ東ハ大平洋ニ洗ハレ海岸ハ前者ノ如キ出入ナキモ海岸ニ沿フテ諸所ニ平地アルハ之ト異ル點ナリ、山脈中秀峰ト呼ブベキモノナク矢大臣山（千百餘米）アルニ過ギズ。

那須山脈ハ三帶中ノ中央ヲ占メ北日本ノ脊梁山脈ヲナセルモノナリ脈中ノ火山十餘個ヲ數ヘ各千四五百米ヲ下ルモノナク、上野青森間ノ列車中ヨリ其特有ノ形ヲ窺フテ個々指名スルヲ得ベシ。

北日本ノ主軸ヲナセル那須山脈ニ平行シ其西ニ當リ岩木山ヨリ南方森吉、鳥海、月山等ニ連ル鳥海火山脈在リテ日本海岸ニ濱シ出羽丘陵ノ上ニ配列シ北日本ノ左翼ヲ固ム。

那須火山脈中殆ンド其中央ニ座スル一火山彙アリ東經百四十四度三十八分ヨリ百四十一度間ニ位シ北緯三十八度四十七分ヨリ三十九度五分ニ亘リ栗駒山、沼澤山、荒雄岳此中ニ在リ殊ニ栗駒山ハ此山彙中最高ナルヲ以テ予ハ之ヲ栗駒火山彙ト稱スルナリ、栗駒山ハ他ニ駒ヶ岳或ハ酢川岳等ノ別名アレドモ駒ヶ岳ナル名ハ到ル處ニ命名セラレ且ツ北方十數里ノ處ニ同名ノ二火山アルヲ以テ山麓栗駒村民ノ呼ブ名稱ヲ取リテ之レヲ栗駒山ト名ヅク。

栗駒山ハ東京青森間ノ中央ニ位スル仙臺ヲ距ル北方四五次驛ナル小牛田停車場附近ヨリ遙ニ其形ヲ認ムベシ、全ク孤立セルニハ非ラザレドモ稍々扁平ナル圓錐形狀ヲ呈スルヲ以テ一火山タルヲ想像スルヲ得ベシ。

若シ登山セント欲セバ一ノ關停車場ニテ下車シ町ヨリ西方ニ

進ムコト約六里ニシテ栗駒山ノ東麓水山ニ達スベシ之ヨリ新
 舊ノ二路アリ前者ハ院内街道ト稱シ栗駒山ヲ越エテ秋田縣院
 内町ニ通ズル小徑ナリ傾斜稍緩ナルニ代ヘテ一里程遠ク、後
 者ハ前者ニ比シテ急ナルモ其里程凡ソ五里ニテ頂上ニ達スベ
 シ、新路ハ近年中央火口丘側ニ開カレタル硫黃鑛山(三井鑛山
 鑛山)ノ爲メニ設ケラレタルモノナリ又南方ヨリ登ラントセ
 バ栗駒村字文字ヨリ三迫川ヲ溯ルノ外ハ道ナシ又秋田方面ヨ
 リハ雄勝郡大湯ヨリ院内街道(街道ト云フモ藪ヲ少シク切り
 開キタルニ過ギズ)ニ依リテ登山スルヲ得ベシ。
 沼澤山及荒雄岳ハ荒雄川上流ヲ溯ルノ外他ニ路ナシ但沼澤山
 ハ御物川上流春川ニ沿フテ登ルヲ得ルモ孰レモ全山悉ク森林
 フ以テ深ク蔽ハレ頂上ニ達スルニハ頗ル困難ナリ。
 荒雄岳ノ西南麓ニハ有名ナル鬼首ノ間歇温泉アリ猶其周圍温
 泉ニ乏シカラズ然レド頂上ニ達スル路無シ。

第一編 地形

栗駒山ハ陸前陸中羽後ノ三國境ニ立テル一大火山ニシテ其周
 圍ハ殆ンド平野ヲ以テ繞ラサレ稍孤立ノ形ヲナセリ、試ニ山
 頂ニ立チテ四周ヲ見渡セハ南ハ北上川下流ノ灌漑地ニシテ坦
 ヲタル第四紀平野中數箇ノ湖沼ヲ湛ヘ遙カニ渺茫タル大平洋
 ニ開クヲ見、東麓ハ一帶北上沿岸ノ河成平野ニシテ水澤地方
 ニ於テ稍東西ニ廣ク、猶ホ眼ヲ轉ジテ西北ヲ眺ムレバ小丘ヲ
 越エテ平鹿平野ニ通ジ御物川此間ヲ北流ス又西南ニハ須金、
 荒雄、禿ノ如キ三岳聳ユルモ遙カニ連山ヲ越エテ新庄平野ノ
 存スルヲ認ムルニ難カラズ唯其北部ト南南西ニ當リ脊梁山脈
 ノ連續セルアリテ即チ北ハ山骨稜々タル大深澤山ヲ距テ、膽
 澤岳(一名燒石山千五百七十五米)ニ達シ岳ハ栗駒山ヲ距ル
 三十軒ニシテ圓錐形ヲナス、山脈猶ホ延テ岩手山地方ニ及ビ
 北上御物ノ分水嶺ヲ爲ス、南ハ根ノ白石岳ヨリ藏王山ニ連リ
 テ陸前羽前ノ境界ヲ爲セリ、根ノ白石岳ハ其形判然セザルモ
 其東北ニハ七ツ森ト稱スル數箇ノ圓錐丘アリテ稍奇ナル地
 貌ヲ表セリ。

北上川ニテ界セラレタル北上山脈ハ栗駒山麓ノ平野ヨリ一ノ
 關町ヲ越エテ東北ニ高ク横ハリ又西方ニハ約七十軒ヲ距テ、